



【九重】子どもたちに地元の自然環境に興味を持ってもらおうと、九重町教委と九重ふるさと自然学校は「ふるさと探検クラブ」の活動を推進している。本年度は「源流探検！生きものさがし」をテーマに全5回を予定。初回は、町内の松木川で15年ぶりに生息が確認された幻の魚「アカザ」探しに挑んだ。

幻の魚狙え 九重で生息確認「アカザ」



九重町で15年ぶりに生息が確認されたアカザ

アカザはナマズの仲間で体長10センチほど。やや赤みがかかった色の特徴で、流れの速い清流の岩の下などにすむ。環境変化に伴って個体数が減っており、「レッドデータブックおおいだ」で準絶滅危惧種に指定される。町内では2009年以

源流で小中学生ら挑む

来、確認されていなかったが今回の活動に向けた事前調査で見つかった。初回は今月中旬にあり、町内の小学生14人と中学生4人が参加。日本ミズベ研究所(由布市)の富山雄太代表40から探すポイントを教わり、みんなで松木川に入った。下流側に網をセットしてから岩を動かし、驚いて飛び出したアカザを狙う漁法に挑戦。2班に分かれて1時間ほど粘ったが、見つからなかった。飯田小6年の木村優介さん(11)は「重たい石をひっくり返すのはワクワクした。冷たい水も慣れたら楽しかった」。子どもたちは近くの公民館に移動し、事前に見つけたアカザを観察。この



幻の魚「アカザ」探しに挑戦する子どもたち=九重町松木の松木川

え緑陽中2年の木村結季さん(13)は「これが幻の魚かと思うと、とてもかわいい。もっと数が増えるよう自分たちでできることを考えていきたい」と話した。県の補助も受けた活動で、今後は奥日田での源流探検キャンプ、湧水ハイキングなどを計画している。自然学校の川野智美代表(53)は「子どもたちが見つけれなかったのは残念だが、アカザが生息できる環境を確認できた。源流をテーマに、楽しく有意義な活動にしていきたい」と話した。(宮家大輔)



〔問①〕 九重で15年ぶりに生息が確認された魚の名前はなんですか。

〔問②〕 その魚の特徴を書きましょう。

〔問③〕 子どもたちがその魚を見つけるために挑戦した漁法を説明しましょう。

〔問④〕 その魚は、個体数が減って「レッドデータブックおおいた」で準絶滅危惧種に指定されています。魚の数を増やすためにどうすればいいか考えよう。